

こころの貧困、 孤立化を防ぐ ために、いま

～生活困窮者の自立と尊厳とは？～

2016年2月20日(土) 13:30～17:00

上智大学四谷キャンパス 4-175 教室

定員：150名

資料代：500円(学生無料)

主催：公益社団法人 東京社会福祉士会 低所得者支援委員会
特定非営利活動法人 東京ひとりとなり支援協会

共催：台東区社会教育団体 傾聴研究会 Heart&ハート

2015年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

■ 開催目的

2015年4月に生活困窮者自立支援法が施行されました。同法では、住宅、生活、就労など、生活困窮者の自立へ向けた様々な支援事業がメニューとして用意されていますが、同時に欠かせないのが一人一人の「こころ」に対する支援です。何らかの問題を抱えて生活困窮に陥ってしまう人は、こころの中で自分自身を否定的に捉える方が多く、助けを求めることを拒絶してしまう方もいます。また、各種の支援・援助を受けても自己肯定感を得られず、問題を繰り返してしまう方もいます。

貧困とは、経済的な問題だけではなく、社会的なつながりの希薄、そして自分自身からの排除が絡み合っている問題であると言えます。このシンポジウムでは、社会と自己の部分に焦点を当て、孤立しがちな生活困窮者の抱える「こころ」の問題と向き合い、当事者の生きようとする勇気を支えるために、周囲の者や専門家による援助・支援について考えます。

■ プログラム

項目	内容
全体のテーマ	「こころの貧困、孤立化を防ぐために、いま」 ～生活困窮者の自立と尊厳とは？～
聴衆対象	援助職に携わる人 / こころの問題に関心のある人 / 自分を活かしたボランティアに興味のある人 / 学生 (150名)
日程 / 場所 / 参加費 / 資料 / 他	2016年2月20日(土)13:30～17:00 上智大学四谷キャンパス 4-175 教室 資料代 500円 (学生無料)
基調講演	山本由紀氏 (上智大学福祉専門学校・遠藤嗜癖問題相談室室長) テーマ：助けを求めにくい社会と、孤立化するこころのメカニズム
パネリスト 講演①	こころの貧困・孤立について ～生活保護の現場から～ 絆の再生に向けて 増田博司氏 (社会福祉士・公益社団法人 東京社会福祉士会 低所得者支援委員会 副委員長)
パネリスト 講演②	傾聴 ～気持ちに寄り添い、こころの声を聴く～ 周囲の人ができる支援 (案) 平井智子氏 (オフィス noho 代表・社会福祉法人 川崎いのちの電話研修担当)
パネリスト 講演③	「作成サポーターと共につくる、セルフパンフレット」～作成と活用への取り組みから～ 中島由佳利氏 (NPO法人東京ひとりとなり支援協会 代表理事)
休憩	
パネルディスカッション	山本由紀氏とパネリスト3名、ファシリテーター：濱津敬氏 (東京社会福祉士会 低所得者支援委員会 委員長) こころの貧困、孤立に対して、いま、何ができるのか？
全体総括	山本由紀氏 こころの支援のために (仮)
主催者より	東京社会福祉士会低所得者支援委員会 / NPO法人東京ひとりとなり支援協会 あいさつ：委員長 濱津敬 講座案内：渡部あゆみ
その他	アンケート回収

● 会場

上智大学 四谷キャンパス 4-175 教室 (南門から入って左側の建物)

〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1

JR 中央線、東京メトロ丸ノ内線・南北線 / 四ツ谷駅 麴町口・赤坂口から徒歩5分

● 連絡先

低所得者支援委員 tokyoteisyotoku@yahoo.co.jp

東京ひとりとなり支援協会 oneself@tk-hitotonari.com TEL. 050-5528-4761

■ 内容について

今、私たちの社会では「自己責任」という言葉が示すとおり、個人が周囲の者や公に対して助けを求めにくい空気が蔓延していると思います。このような中で、何か問題を抱えていたとしても「自分なんて…」という気持ちや、「こうなったのは自分が悪い」、「自分の努力が足りないせい」などとすべてを自身の責任として抱え込んでしまう方は、ますます孤立し、支援の手が届かずに問題を悪化させてしまうことがあります。

人が自己肯定感を得られず、自らを排除し、生きようとする意欲を低下させてしまうのはなぜなのか、また、そうなる人はどのようなになってしまうのか。この点について、上智大学福祉専門学校教員である山本講師から専門的な観点で基調講演をいただきます。その後、各パネラーから各分野での事例や活動報告をいただき、パネルディスカッションを通して誰もができる支援や援助、専門家によるアプローチについて皆さんと一緒に考え、生活困窮者への「こころの支援」のあり方を探ります。

